

第3回 港区学校情報化アクションプラン策定支援業務委託事業候補者選考委員会議事録

日 時	平成29年3月15日(水) 15:00~17:00
場 所	教育委員会室
委 員	委員長 益口 清美 教育委員会事務局次長 副委員長 佐藤 雅志 教育委員会事務局庶務課長 委 員 山田 康友 教育委員会事務局政策担当課長 委 員 新井 樹夫 教育委員会事務局学務課長 委 員 渡辺 裕之 教育委員会事務局指導室長 委 員 若杉 健次 総務部情報政策課長
事 務 局	教育委員会 庶務課 庶務係

【議事要旨】

委員長 事務局	<p>(1) 二次審査プレゼンテーションの実施および事業候補者の選考について、一次審査通過事業者による提案説明を行い最終的な事業候補者を決定する</p> <p>(一次審査の結果報告と二次審査の説明)</p> <p>事務局より、二次審査の説明、変更になった一次審査の結果説明を行います。最初の資料は、本日のプレゼンテーションのスケジュール等です。次は、一次審査の採点表と審査結果です。最後は、本日の審査に使う審査用紙です。変更になった一次審査採点表をご覧ください。</p> <p>まず、最初のページ、実務担当者の経歴です。採点の幅を広げるために、表現を変更しました。(4)は事務局採点としました。</p> <p>次に、A社とB社の計算結果です。両社にあまり差はありませんでした。ここに今回の二次審査の結果を加えたもので、全体の得点を計算します。</p> <p>次に、本日のスケジュールです。3時10分からA社のプレゼンテーション15分、質疑応答20分、3時55分からB社のプレゼンテーション15分、質疑応答20分です。およそ2時間で終了し、その後、すぐに集計して事業者を決定します。</p>
委員長	<p>一次審査の採点をやり直しました。実務担当者の経歴の基準を審査員の考えで採点することになりました。その結果、A社が若干下がりました。2社の差はあまりありません。これでいいですか。では、一次審査の結果はこれで決定します。</p> <p>二次審査について、今事務局からありましたが、A社、B社の審査表に記入します。今日は何名呼んでいますか。</p>
事務局	<p>1社3名までで、2社呼んでいます。説明は実務担当者にお願いしています。プレゼンテーション用に、すでに提出済みの提案書を抜粋したものを2社とも提出しているので配布します。提案内容に変更はありません。</p>

<p>A社</p>	<p>他に無ければ、始めてください。</p> <p>&lt;二次審査 プレゼンテーション（概要）&gt;</p> <p>港区情報化アクションプラン策定支援業務について提案する。</p> <p>まず、港区の学校教育における情報化推進の目指すべき姿について。その後、港区の現状や特性。国の動向を踏まえた、今後の取組の重点項目についての説明。最後に重点項目の施策の実現に向けた具体的な施策について説明する。</p> <p>まず、学校教育における情報化推進の目指すべき姿について。</p> <p>現在、港区は次期学習指導要領についてのパブリックコメントが進行中。いかにして、子どもたちが主体的に学んでいく。また、より対話を強く求められている、というような形で取り組んでほしいと明記されている。</p> <p>そのために、授業や学習過程で、ICTをより効果的に使う必要がある。そのために、日常的にICTを使える環境作りが必要。政府も、授業だけでなく校務の部分でのICT活用が不可欠だといひ、文科省も、一人一台のコンピューターの環境、教育版のセキュリティ講習が必要だと言っている。</p> <p>23区の学校教育情報化の動向について、特徴的な4区をあげる。荒川区、渋谷区は、これから進めていくことになるが、この2区は整備環境が進んでいる。</p> <p>一方、板橋区、江東区は、弊社が支援しているが、モデル校でのICTの実施から全校へ展開する計画を進めている状況だ。23区でもバラつきがある。</p> <p>港区の動向と特徴。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、人口増加に対応する環境整備の促進。</li> <li>2、幼・小・中一貫教育推進に伴い、幼少期から環境に慣れ、つまづきをなくす。そのために、学習内容、教育、教員の指導のクオリティの向上が必要。</li> <li>3、国際学級、多国籍の子どもたちがともに学習するうえで、国際感覚を身に着けていける人材の育成。</li> <li>4、現在のプランを見て、既に導入されている機器について、まだ使いこなせていない印象を持った。今後のアクションプランで充実させていく。</li> </ol> <p>これらの点を踏まえ、弊社の目指すべき姿を3つ。</p> <p>主体は子どもたちである。子どもたちの情報を駆使していく活用能力、将来国際的に活躍してゆける力の育成。</p> <p>子供たちを支える先生方は、子どもたちにきめ細やかな指導をする。子どもたちと先生を支える学校への部分については、現在校務支援システムを導入している。改善し活用し、子どもたちと向き合う時間を作ってほしいと考えている。</p> <p>港区の現状と課題、今後の取組の重点項目、大きく2つ。</p> <p>国際化の推進と人口の増加への対応。現状のプランは情報セキュリティの体制が十分機能していない。学力向上の支援も、まだ求められている。</p> <p>想定される課題と見直す点。</p>
-----------	--

<p>事務局 B委員  A社</p>	<p>国際学級の運営、小・中一貫教育や特別支援教育等、幅広い教育に対応するよう改善し進めていく。現行、ひとり一台の整備、手引書が不十分。機器整備、先生方の指導力の改善が必要。</p> <p>国の動向を踏まえた今後の取組。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、子どもたちの国際感覚を磨く。ICTを日常的に使う。</li> <li>2、先生方もICTを使って、指導力の底上げをはかる。</li> <li>3、子どもたち、先生が、使いたいときに使えるように環境を整える。</li> </ol> <p>重点項目を実現するための具体的提案。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、国際学級でICTをどんどん活用し、多様な価値観の理解、促進。</li> <li>2、遠隔授業の促進。</li> <li>3、幼稚園、つばさ教室での利用の促進。</li> </ol> <p>子どもたちがICTを活用する際の情報モラルの教育。子どもたちのモラルの推進。先生方自らICTを使って授業を行える体制の整備。ITC環境を使いこなすまでの道筋を整えていく。アクティブラーニング等も、教育委員会とともに進めてゆきたい。</p> <p>また、学校側の機器整備の見直し。デジタル教材コンテンツを増やす。安心して使えるセキュリティ体制の構築。</p> <p>さらに、ICTを導入した活用効果の測定計画や、弊社よりも専門的な有識者をお招きすることで、アクションプランの実現性、信頼性の向上につなげることができる。</p> <p>これまで、各自治体、教育委員会と合同でICT手引の作成、先生方向けのセミナーの開催等の実績がある。</p> <p>港区の子どもたちが、自分の手で未来を切り開き、国際的に活躍していけるような、アクションプランの策定を支援していきたいと考えている。</p> <p>以上。</p> <p>&lt;質疑応答&gt;</p> <p>質問のある方はお願いします。</p> <p>重点項目の実現への施策、港区の特徴として、国際学級を取り上げているが、具体的にはどんなことをするのですか。</p> <p>英語教育では、絵を見て発音し、ICTを使って発音の確認をし、ネイティブの子どもたちの発音を聞きます。子どもたち主体で授業を進めることができると思います。これからの学び方としては、タブレットを使って自分で調べる、互いに教え合うといった主体的な学び方が重要になってきます。</p> <p>多国籍の子どもが同じ教室で学ぶのは、港区の特徴です。幼いころから多様な考え方を交換でき、一つの課題に対し、多様な人と会話しながら自分の考え方を整理していくことができます。国際色豊かな教室の中でICTを使うことは、これからの子どもたちにとって、得難い環境となるはずです。</p> <p>タブレットには、個人のレベルにあった内容を入力できます。英語等、レベ</p>
--------------------------------	--

	<p>ルの違う子どもたち、学習能力の違う子どもたち、すべてに満足してもらえるものを用意することができると思っています。</p>
B委員	<p>分かりました。</p>
C委員	<p>I C Tの導入活用効果測定計画は、よいと思います。だが、I C Tを使ったから学習効果が上がったかどうか、見極めるのは難しいのではないですか。</p>
A社	<p>2年前、全国で5～6か所で精密な調査をしました。教科にもよりますが、I C Tを使った方が効果が上がったというデータがあります。学習能力が向上したかどうか、学習に対する意識が向上したかどうか、精密な調査です。また、社員を支援員として教室へ配置し、授業の中でI C Tの使い方が効果的かどうか見極めることもしています。</p>
D委員	<p>プログラミング的施策、教員の指導力の底上げ、具体的にどのようなものですか。例えば、教員がそれを見ると、やり方がわかるようなものですか。</p>
A社	<p>次期学習指導要領にも、プログラミング的な考え方の要素は明記されていません。まだ、不確定です。あくまでも論理的な指導、いろんな人と話し合いながら組み立てていく。P Cを使うのではなく、作る側の意識を持つことが大事だと考えています。</p>
E委員	<p>I C T整備の見直し、23区で最も先進したとは、どういうことですか。</p>
A社	<p>23区を見る限り、校務は校務システム、授業はタブレットと分かれています。将来的には、授業の中で作られたデータと職員室のデータを連携していき、学校内のI C T化を進め、子どもたちと向き合う時間を確保する。他区はまだそこまで考えていないので、より先進的なI C Tを使う事例になればと考えています。</p>
E委員	<p>校務システムと授業のコンテンツを連携して共有化すると。国際学級の話でも、自分で調べる等、クラウドが関係するコンテンツを使うし、遠隔授業の話もありました。そこにはインターネット接続リスクがあると思う。インターネット接続リスクとセキュリティポリシーの共存、セキュリティに関する体制の構築と運用、どう考えていますか。</p>
A社	<p>弊社は文科省の教育版情報セキュリティのガイドライン作成を手伝っていますが、学習系と校務系をインターネットリスクからどう守るか、まだ議論中です。港区の現状を見て決めていきたいと考えています。</p>
C委員	<p>インターネット完全分離とかですか。</p>
A社	<p>それは厳しすぎると思いますが、現状を把握してからでないと、具体的な提案は難しいと考えます。</p>
A委員	<p>効果測定計画ですが、アクションプランの中に位置づけるのか、その関係が分からない。いつ誰が測定するのですか。</p>
A社	<p>まず、アクションプランの中に、効果測定をする計画は必ず入れます。いつ誰がどんな形でやるかはアクションプランの中に記載していく必要があると考えています。</p>

A委員	一貫性を持ってやる事業者はたくさんあるのですか。
A社	やり方が明示されていれば、出来る業者はいます。
A委員	静岡大学の教授のお墨付きとあるが、どういうことですか。
A社	先生本人が、アクティブラーニングを意識したICTの活用授業を研究されています。より専門的な目線で客観的に評価してもらえるとということです。有識者の助言があることで、アクションプランが実現できると考えています。
A委員	国レベルで何か関わられている先生なのですか。
A社	学習指導要領の部分も検討されています。文科省が効果検証をやった時の主要メンバーでもあります。
委員長	教員の指導力の底上げ、とあるが、研修や組織体制はどうするのですか。
A社	通常のICT活用の研修とあわせて、ワークショップ形式の研修を行い、先生方に自分で考えてもらえるようにします。組織体制は、指導員の配置では予算が高くなるので、学校内に自立できる組織体制づくりを目指します。
事務局	以上で、A社のプレゼンテーションを終了します。
B社	<p>&lt;二次審査・プレゼンテーション（概要）&gt;</p> <p>まず、弊社の実施体制の説明をする。二次審査の要件として、説明は実際に職務に携わる担当者が行う、ということなので、体制図を付けている。</p> <p>弊社は2社と共同事業体を組んでいる。</p> <p>1社目、特別区、教育委員会を中心に、アクションプランの策定に実績のある会社。</p> <p>2社目、全国の大学、教育委員会を中心に、ICT環境の構築、運用に実績のある会社。</p> <p>2社と共同事業体を構築することで、実効性の高い、アクションプランの策定が可能。</p> <p>次に、学校教育情報化推進の目指すべき姿について。</p> <p>弊社は本業務のコンセプトとして「全体最適」というキーワードを掲げている。局所的ではなく全体的に物事を捉え、事務の効率化、技術的動向、セキュリティの強化、緊急事務対応等、長期的視点で進めていく。</p> <p>21世紀にふさわしい学びと学校の創造を実現するために、「次期港区学校情報化アクションプラン」を立案することが重要と考える。</p> <p>次に、あるべき姿としてポイントを3点あげる。</p> <p>1点目。先進的な取り組みをした結果、授業の準備に時間がかかる、無線LANが繋がらない、ネットワーク通信が遅い等、問題点も出てきている。これらの問題を解決するために、全国地域情報化推進協会（APPLIC）において、検討を行っているが、弊社はここに参加しているので、こちらの情報、成果を、港区の事業へリアルタイムで活用できる。</p> <p>2点目。「効率的」な調査・分析の実施。弊社の実績・ノウハウを活用し、さ</p>

<p>事務局 D委員  B社</p>	<p>らに情報共有ツールを利用することで解決できる。</p> <p>3点目。実現可能性の確保。理想・要望を取り込むだけでは実現不可能な計画になる。人・物・金を意識して、実現可能なプランを作成する。</p> <p>港区の現状や特性、課題に対する弊社の認識。</p> <p>港区はICT環境を先進的に進めていると認識している。既に整備された環境を活用しつつ、さらなる環境の充実、セキュリティ対応等が不可欠と考える。</p> <p>ここからは重点項目の説明に入る。</p> <p>先進自治体としての期待。国の施策・指針の整備、利用促進を進める必要がある。次期アクションプランでは、指導要領の改正を見据えた策定が必要。アクティブラーニングを実現するため、タブレットの導入、プログラミング教育の取組みを考えている。さらに、子どもの能力向上のために、教員の指導力の向上も不可欠。</p> <p>問題点の解決策。弊社はAPPLICに参加しているので、全国的な情報収集・提供が可能。それらの経験や実績を踏まえ、港区の実状を加味した効果的な支援ができる。</p> <p>解決策の2点目。調査・分析の効率化。弊社では、他区での実績もあり、効果的な情報収集・分析の具体的実現が可能。</p> <p>重点項目の2点目、セキュリティの維持・向上の課題と解決策について。文科省の緊急提言、セキュリティポリシーの見直し、教員への研修等の対応が可能。技術的な側面として、校務系システムと学習系システムの一元化、認証の強化。専門家の活用。</p> <p>重点項目の3点目。短期間での実現に対する課題と解決策。港区の現状と課題を既に認識していること。他区においても、本業務と類似した案件に従事し標準化された機能要件を多数保有していること。以上のことから、短期間での実現が可能。</p> <p>最後に、提案のまとめ。弊社を採用してもらったらプロジェクトの推進保護によって、議論や検討に多くの時間を割く事が出来るようになる。「全体最適」を実現できるスキルを持っていると自負しているので、幅広い要望に柔軟に対応が可能。その結果、実現性の高いアクションプランの策定ができると考えている。</p> <p>&lt;質疑応答&gt;</p> <p>質問のある方はお願いします。</p> <p>アクションプランの中で、プログラミング教育の取組みの具体的な内容を教えてください。</p> <p>実証実験でプログラミング教育が進んでいると認識しているので、そういった状況を推進していくとともに、理科や総合的な学習の時間のなかで扱っていく予定ならば、作業部会を通じて学校の意見も加味して、具体的な内容を検討し、</p>
--------------------------------	--

D委員 B社	アクションプランでまとめていきたいと考えています。 御社が考えているプログラミング教育は、具体的にどのようなものですか。
E委員	たとえばロボットを使ったものだったり、スクラッチを使ったものなど、そういったことを検討していきたいと考えています。
B社	セキュリティについて。インターネットリスクへの対応を、港区の現状を踏まえてどのように提案できますか。R F I の効率化というが、港区が学校情報化アクションプランを策定する中で、R F I を出す具体的な相手先がいるのかどうか、その点はどうぞお考えですか。
A委員	事業計画を立てる上では、コスト、スケジュールが大事です。弊社だけの意見だけでなく、多くのベンダーさんが教育関係のことをやっているのので、幅広くそういった意見を聞き、貴区にとってより良い有意義な情報が集まり検討する材料になると考えています。
B社	セキュリティについては拙速に回答できかねます。港区の現状を聞かないといけな部分があると考えています。インターネットの分離。学習系と校務系の分離。特別区の中でも来年度そういった部分を見据えて、どうするかを具体的に議論する必要があると考えています。
B社	今日の説明、提案の中に、目指すべき姿が一つも書かれていないがどうお考えですか。
C委員 B社	提案なので、具体的に指し示すのは控えました。タブレット1人1台なども言われているし、あるべき姿はこれから調整し、提案していきたいと考えています。
C委員 事務局 委員長	あえて出さなかった理由は何ですか。 方向性についての判断に迷ったので記載しませんでした。 分かりました。
B社	他に質問はありますか。 港区は先進自治体として、名前に負けないような新たな先進的な提案がたくさんできると言いたいのだろうが、具体的な提案内容が分からない。どんなことができるのですか。
D委員	例えば、先ほどプレゼンで話に出たA P P L I Cという団体があるので、そこで、学校のI T C環境の整備、望ましいものを情報収集し、その中から課題がいくつか出てくるので、そういったものを考えながら検討するといったことを具体的に示しています。
B社	また、学校調査は、ゼロベースで何か調査をするのかは時間がかかります。持っているものをベースにして追加で何が必要かを考えていきます。
B社	事務の効率化、教員の負担軽減ということで、校務支援システムを、今後このプランの中に、どういう位置づけにするのですか。どういうコンセプト、考え方なのですか。
B社	通知表をどういう単位で作っていくのか。今後指導要領の改定があり、学校単

	<p>位で通知表を作っていくと、コストが大きくなる、期間がかかるという意見があります。また、システムが、小中一貫という考え方ができていません。1～9学年というように学年を管理していくということに対応させます。中高一貫校の指導要領を国が示していますので、これを港区はどうするのか、これを参考にするのかどうかで内容が変わってくると思います。</p>
D委員	<p>教員の負担軽減という点で、校務支援システムをどう考えているのですか。</p>
B社	<p>今使っているシステムを新しい内容にどう変えられるかが課題だと思います。</p>
C委員	<p>解決策のところで、他の地区の情報収集という答えは初めて見ましたが、今の質疑を聞いていると、いろいろ考えはあるようですね。例えば、アプリケーションの提携、運用、支援とあるが、具体的な事例を教えてください。</p>
B社	<p>校務支援システムを調達するのに、いくらくらいかかるのか、そういう情報はなかなか出てきません。指導要領や調査書をどうしたいのか、港区は、様式が決まっているだろうが、そういったものをベースに、校務ベンダーは都内に3社しかないので、そういったところに依頼して情報を得て、具体的にどうするのか検討したいと考えています。</p>
A委員	<p>A P P L I Cとは何なのですか。</p>
B社	<p>総務省が全国の自治体でアプリケーションを導入するときに、推奨するものを団体として決めてゆこうというものです。それを標準化しているのがA P P L I Cという団体。構成は、自治体と総務省と文科省。I C T教育では、校務支援システムの標準化、学校I C T環境、教育ネットワークは、どういうものがあるのか、ガイドブックを作り自治体に配布しています。</p>
A委員	<p>自治体の加盟数を教えてください。</p>
B社	<p>加盟数はすぐには分かりません。たとえば教育I C Tだと、東京だと多摩地区の自治体とか、千葉、静岡、兵庫とか、いろいろな自治体が入っています。</p>
C委員	<p>共同事業体とはどういうことですか。</p>
B社	<p>今日のプレゼンはアクションプランだけの計画実績のある弊社のみですが、もう1社は、いろんな形でかかわっていて、実施部分で分かれています。</p>
事務局	<p>他に質問がなければ、B事業者のプレゼンテーションは終了とします。</p> <p>&lt;採点&gt;</p>
委員長	<p>事務局より、集計結果について説明してください。</p>
事務局	<p>集計表をご覧ください。一次審査と二次審査の結果を点数にしています。1860点満点で、A社1408点、B社1178点です。</p>
委員長	<p>それぞれの委員から、一次審査と二次審査を合わせて審査の講評をお願いします。</p>
B委員	<p>A社は良い評価をつけました。将来に向けての具体的提案は、資料の記載は乏しかったが、質疑応答の際に、答えられる内容を持っていました。</p>



D委員	<p>B社は、資料の書き方に抽象的な表現が多く、分かりづらかった。セキュリティの部分に力を入れていることは評価しました。</p> <p>具体的なアクションプランの中に、今日のプレゼンテーションの内容をどう生かすのかは来年度、業者が決まってからやっていくことで未知数ですが、採点の基準は、港区の状況をどれだけ把握しているか、学習指導要領を見据えて、学校教育が今、何を求められているのか、そういう視点を持っているということでA社を高く評価しました。より具体的でした。</p>
A委員	<p>B社の資料を見たとき、提案内容が理解できなくて、今日に期待したのだが、具体的提案が書かれていなかったことが理解出来ました。質疑でもわからなかったため、心もとないという事で、A社の評価を高くしました。A社も国によりすぎている感じだが、こちらでコントロールできると思います。二次審査で明らかな違いが出たということです。</p>
C委員	<p>A社もプレゼンテーションが上手いわけではないし、文科省、文科省というのも気になったが、教育に対する情熱や、理解は感じられました。時間があればプログラム教育について、もっと聞きたかった。</p> <p>B社は、「全体最適」をセールスポイントにしているが、よく分からないです。提案書も具体性に欠けています。プレゼンでも補えませんでした。そういう意味で、A社の方が優れていると思いました。</p>
E委員	<p>A社は、実現できるかわからないが、効果検証など具体的な提案がありました。プレゼンテーションの説明自体は分かりやすかったので評価しました。気になる点は、プレゼンをした方が実務担当者だと思うが、的を得ないところがあったので、評価はしたが、実際に実務の時は、そこをしっかりと監督してください。</p>
委員長	<p>B社は、港区の現状を捉えた提案とは思えない内容であり、教育そのものへのICTの活用という視点での提案が少なかった。ベンダーにRFIを出すなど実効性が高いとは思えなかったので評価を低くしました。</p> <p>A社は、目指すべき姿の提案がありました。B社は、具体性に欠ける提案でした。皆さんも同じようなご意見だと思いますので、A社に決定してよろしいでしょうか。</p>
委員長	<p>(一同、賛成)</p> <p>異議がないようなので、Aの事業者を候補者として決定します。万が一、A社が出来なくなったときは、次点としてB社が候補者となります。</p> <p>以上で、第3回の選定委員会を終了します。</p>